「『アラブの春』の将来」研究プロジェクト

【目的】

2011 年 1 月からアラブ諸国で進行している政治変動、いわゆる「アラブの春」の推移を把握し、その背景と展望を中長期的に分析することによって、中東の変動が世界に及ぼす影響の考察と、その中で日本が採るべき方策について提言を行うことを目指す。

【研究概要】

長期間にわたって続いてきたアラブ諸国の権威主義体制を大規模な民衆デモによって打倒しようとする運動、「アラブの春」は、チュニジア、エジプト、リビアの独裁的な指導者を打倒したものの、経済の回復や民主的な新体制の構築などに多くの課題を抱えている。また、シリアとイエメンにおいては、反体制派と政権の衝突が続き、現在に至るまで多くの犠牲者を出してきた。民衆デモによる独裁政権排除の動きは、民主主義と安定を両立させ、多くの人々が公正と感じられる社会の構築に向けた困難な道のりの出発点に過ぎず、その先行きは未だに不透明である。

今般の政治変動の背景には、メディア、宗教・宗派、部族、社会階級、軍といった様々な要素が複雑に絡み合い、さらに、それらの要素がどのように組み合わさるかは、各国が経験してきた歴史的経緯と社会的変化に規定され、各国ごとに多様な様相を作り出している。また、湾岸の王制・首長制アラブ諸国は、エジプトやシリアの民主化運動を支持する一方で、国内においては潤沢な石油資金を用いて現行の政治体制に対する不満を抑えることに当面は成功してきたが、今後も平静を保つかは確実ではない。そして、アラブ諸国の政治変動が、パレスチナ、イスラエル、イラン、トルコ、米国などにどのような影響を与え、中東全体の国際関係をどのように変えていくのかについても今後の展開を見ていかなければならない。

本研究プロジェクトは、以上の認識に基づき、①政治変動の当事国と湾岸諸国の動向分析、②イスラーム主義勢力の地域横断的分析、③アラブ諸国における民主化の可能性と障害に関する比較政治学的考察、④中東地域全体のパワーバランスの変化に関する考察、⑤世界的文脈における「アラブの春」の考察の 5 点を中心に、「アラブの春」の現状・背景・展望を総合的・多角的に分析・考察する。

具体的な分析テーマは、以下の通りである。

①　エジプト民主化の進捗：ムバーラク後の政治・社会・経済の変化

②　イエメンの政治変動と社会変動

③　シリアの動乱と反政府運動の実態

④　湾岸諸国の「改革」と政治変動の可能性

⑤　アラブ諸国の政治変動に対するトルコの影響

⑥　アラブ諸国民主化の可能性と障害：インドネシアとの比較から

⑦　イスラーム主義の成り立ちと各国における多様性

⑧　アラブ諸国の政治変動と中東域内のパワーバランス

⑨　米国の対中東政策とアラブ諸国の政治変動

【研究プロジェクト・メンバー】

主査

立山　良司　　防衛大学校教授

委員

池田　明史　　東洋英和女学院大学教授

今井　宏平　　中央大学大学院法学研究科博士後期課程

鈴木　恵美　　早稲田大学准教授

辻上　奈美江　　高知県立大学講師

松本　弘　　大東文化大学教授

見市　建　　岩手県立大学准教授

委員兼幹事

森山　央朗　　日本国際問題研究所研究員